

第5学年 家庭科学習指導案

1 題材名

自立した消費者になろう C(1)ア(ア)(イ), イ

2 題材設定の理由

(1) 題材について

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標としてSDGsが国連サミットの加盟国で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された。169のターゲットの中には、「捨てられる食料を減らす」ことや「ごみが出ることを防ぐ」ことが書かれている。

本題材は、小学校学習指導要領内容C「消費生活・環境」の(1)物や金銭の使い方と買物を受けて設定したものである。お金や資源を無駄にすることなく、多様化・複雑化した消費者トラブルに合わない、自立した消費者になるために、「生活の営みに係る見方・考え方」の「持続可能な社会の構築」の視点に重点をおいて学習を進める。限りある物や金銭が大切であることや、自分の生活が身近な環境に与える影響に気付き、持続可能な社会の構築に向けて、主体的に生活を工夫できる消費者の素地を育てたい。また、これまでの児童の買物経験から課題を設定し、課題を解決する活動を通して、「自立した消費者」になることもねらいとする。そして、この学びが中学校での「金銭の管理と購入」「消費者の権利と責任」の学習につながり、将来自立した消費者になることを願っている。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、必要な学習用具を自分で購買へ買いに行ったり、家庭の仕事を頼まれて、店で必要なものを買ったりする経験をしている。これらの買物は売り手と買い手が売買契約を結んで成り立っているが、児童は契約を結んでいるといった意識はない。

「買物」に関するアンケート調査を行ったところ、全員が買物をしたことがあり、失敗の経験もあることが分かった。失敗の多くは、「買ったけれど、あまり使わなかった」「思っていた商品と違って」といった、あまり考えたり調べたりせずに購入したことが挙げられた。また「失敗した時にどうしたか」の問いに、「返品をした」と答える児童もいた。

そこで、本題材では売買契約に関する正しい知識を身に付け、持続可能な社会の構築に向けて、これからの自分の消費生活をよりよく工夫しようと実践する意欲につなげたい。

(3) 指導について

題材の始めに買物の失敗経験について振り返る。失敗談を「生活の営みに係る見方・考え方」の「持続可能な社会の構築」の視点から見つめ直し、失敗することで、お金や資源が無駄になっていることに気付かせ、どうすれば失敗しない自立した消費者になれるのかを考えていくことを、課題として設定する。課題を解決する始めは、売買契約を取り上げる。買物のどの場面で契約が成り立つのかを考える時間を設定することにより、消費者としての自覚をもたせ、的確な消費行動をとる

必要に気付かせたい。

また、課題を解決する終わりには、身に付けた知識を生かして物の選び方や買い方について考える。その際には、みそ汁の調理実習で扱う豆腐を題材として取り上げる。値段や分量など違う種類の物を複数準備することにより、多様な観点から商品を比較、検討することができるようにする。身近な食品を題材にすることにより、家庭での実践に生かしやすくなると考える。

3 題材の目標

- 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方について理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理に係る技能を身に付ける。(知識及び技能)
- 身近な物の選び方、買い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。(思考力・判断力・表現力)
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活を工夫し、実践しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。・身近な物の選び方、買い方を理解しているとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。	身近な物の選び方、買い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

5 指導と評価の計画(全6時間)

学習過程	時間	小 題 材 名 ○ねらい ・主な学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
とらえる	1	1 「消費者」として大切なことは何だろう ○身近な物の選び方、買い方について問題を見だし、「自立した消費者」の課題を設定することができる。 ・買物のシチュエーション映像から、良い点、悪い点、疑問に思った点を書き出し、課題を設定する。		①身近な物の選び方、買い方について問題を見だし課題を設定している。(行動観察, ワークシート)	①購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方・買い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(行動観察, ポートフォリオ)
見通す	2	2 「契約」とは何だろう ○買物の仕組みや消費者の役割について理解することができる。 ・売買契約の意味や消費者の役割について考える。	・買物の仕組みや消費者の役割が分かりについて理解している。(ワークシート, 行動観察)		
確かめる	3 4	3 どんなことに気を付けて買物をしたらよいだろう ○物や金銭の大切さや計画的な使い方について理解することができる。 ・物やお金を無駄にしない買物の仕方を考える。 ○身近な物の選び方や買い方について考え、工夫することができる。 ・上手な商品の選び方の観点について知る。	・物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。(ワークシート) ・身近な物の選び方、買い方を理解している。(ワークシート)	②身近な物の選び方、買い方について考え、工夫している。(ワークシート, 行動観察)	②購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方・買い方について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(ポートフォリオ)

振り返る	5 本時	4 買物をしてみよう ○購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・みそ汁に入れる豆腐を選ぶ。	・購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。(ワークシート, 行動観察)		
	家庭	○家庭で買い物をする。 ・チャレンジカードを配布し, 家庭での実践の様子を記録し, 紹介の場を設ける。			
生かす	6	○身近な物の選び方, 買い方について考えたことを分かりやすく表現し, 評価したり改善したりしている。 ・各自の実践をグループで話し合い, 実践計画を改善する。		④身近な物の選び方, 買い方についての課題解決に向けた一連の活動について, 考えたことを分かりやすく表現している。 (行動観察, ポートフォリオ) ③身近な物の選び方, 買い方について実践を評価したり, 改善したりしている。(ワークシート, 行動観察)	③購入に必要な情報を活用し, 身近な物の選び方・買い方について, 工夫し, 実践しようとしている。(行動観察, ポートフォリオ)

6 本時の学習

(1) 目標

購入するために必要な情報の収集・整理を適切にすることができる。

(2) 展開

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
10	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	○調理実習で作るみそ汁に入れる豆腐であることを確認することにより、選ぶ視点を明確にすることができるようにする。	
	みそ汁に入れるとうふを選ぼう		
15	2 自分が作るみそ汁に入れる豆腐を選ぶ。	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">タブレット</div> ○豆腐のさまざまな情報を用意しておくことにより、自分が必要な情報を取捨選択することができるようにする。	
10	3 豆腐を選んだ根拠を共有する。	○値引きシールや、環境に配慮した商品であることなどの情報を追加することにより、見方・考え方を働かせることができるようにする。	
10	4 本時のまとめをする。	○児童の発言から本時のまとめを作っていくことにより、要点をおさえることができるようにする。	・購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 【知識・技能】 ※ワークシート ※話し合いの様子

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	身近な生活が環境に与える影響に気付き、場合や状況に応じて、豆腐の選び方、買い方が変わることに理解することができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	商品を選ぶ際に必要な情報を一覧表にして提示することにより、商品を比較しやすくすることができるようにする。